



川東小だより

第2号

平成30年5月11日

新発田市立

川東小学校

☆☆合い言葉は、「夢や目標」に向かってチャンス・チャレンジ・チェンジ です。☆☆

「夢や目標に向かって」

教頭 富田 一志

私の小学生の頃の夢は、「漫画家になること」でした。

もともと漫画好きだった私。休み時間は、自由帳に「マイ・キャラクター」を描いてはニコニコしている、そんな子どもでした。

そんな私に、大きな出来事が起きました。家庭の事情で引越しをすることになったのです。4年生の1学期終業式のことでした。新潟市から長岡市へ引っ越したのですが、どういうことになったのかというと、「夏休中、一緒に遊ぶ友だちがいない」という状況でした。

当時の長岡市は水泳が盛んで、確か、新しい担任の先生から、「富田君、水泳の部活出てみない？」と誘われたように思います。もちろん、慎重な私の答えは、「いえ、大丈夫（結構）です。」…私は金槌だったのです。

一人で過ごす4年生の夏休み。覚えていることは、子どもなりに感じた孤独と、長岡の花火が大変きれいだったことです。夏休み中は、ひたすら読書（漫画）と製作（プラモデル）に明け暮れました。

2学期が近づくにつれ、不安が頭を持ち上げてきました。「僕は、新しい学校でどうなるんだ」という不安です。

足取り重く入った新しい教室。新しいクラスメイトは水泳で鍛えられ、大変逞しい。私と間逆です（ずっとインドアだったので当然です…）。完璧に気圧された私。…本当に困りました。

最初の1週間は大変でした。元々話し下手な私。なかなか友だちができません。何だか別の世界に一人潜り込んだような錯覚に陥ります。「じわっと」涙ぐむことも。当時の私には、自分から話しかける「勇気」が足りなかったのです。

そんな私に優しく語り掛ける人物は、…いなかったです。当たり前です。コミュニケーションは「明るく」かつ「先手」が基本。元々の気質に加え、一人の夏休みを過ごした私のコミュニケーション能力は、かなり下降気味でした。仕方がないことでした。

そんな窮地において、私は自由帳を開きました。そして、自分が心酔する漫画のヒーローたちをおもむろに描きまくったのです。夏休み中にヒーローたちの模写トレーニングは十分済ませています。完璧に描けます。ヒーローたちを自由帳に登場させな



がら、私は勇気を奮い立たせます。ヒーローたちが、自由帳から語りかけます。「大丈夫だ。努力・友情・勝利だ!!」と。「自分から話し掛ける勇気をもって!」と。

事の顛末は物語のように行かず。結局、私は勇気をもって話しかけたのかというと、そうではなくて、「おお、すごいじゃん。漫画上手いねえ。」「この漫画面白いよな。」「今度、自分にも描いてくれよ。」「みたいなやりとりから、「自然と」友だちができていったのでした。とても嬉しかったです。友だちよ、そして、ヒーローたちよ、本当にありがとう。

さて、この頃からでしょうか。「自分も、子どもたちを励まし元気になる、そんな漫画家になりたい!」と思うようになったのは、「自分もあんなヒーローを描きたい!」いつしか、私の自由帳は、コマ割のついた「自作漫画ノート」になっていきました。

…あれから月日が経ちました。今、私は教師生活22年目、ここ川東小学校で、学校の先生をしています。富田少年は、漫画家になる「夢に挫折」し、教師をしているのか。また、「漫画家なんて、なれっこないってことですね」といったレベルの話なのか。

私は、自分が「夢に挫折した」とは、これっぽっちも思っていない。なぜなら、今私は、教師として、「子どもたちを励まし元気になる」ために、日夜奮闘しているからです。教師と漫画家、確かに職業は違います。私は、職業「漫画家」の自分にはなれませんでした。しかし、私は「子どもを励まし元気になる」ために頑張る、そんな自分に、しっかりとなることができているのです。「なりたい自分になる」夢は叶っています。そしてこれからも叶えていきます。

「夢や目標をもつ」ことは、とても素敵なことだと思います。「夢や目標」は、たとえ形（例えば、なりたい職業）は変わっても、「もち続ける」ことで、その人の自己実現（こんな自分になりたい）を支え、努力するための原動力になります。

「人起こし」だからこそ、「夢や目標をもつ」ことは素晴らしい。その素晴らしさを、あの頃の富田少年がそうだったように、川東小学校の子どもたちと分かち合いたい。そう思って勤める毎日です。